

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-061

名前：鳥本 啓太

学会名：第 81 回日本放射線技術学会総会学術大会

開催場所：パシフィコ横浜

開催期間：2025 年 4 月 10 日（木曜）～4 月 13 日（日曜）

発表なしのため、1～3 を除く。

4.学会参加の感想

今回、初めて日本放射線技術学会に参加し、多くの学びと気づきを得ることができました。会場では、日頃の講義や教科書だけでは得られない、実際の現場で活躍されている診療放射線技師や医師の方々による発表、さらには最新の医療機器に触れる貴重な機会が数多くあり、診療放射線技師を目指すうえで大きなモチベーションの向上につながりました。

参加前の私は、日々の講義や実習を「資格取得のための勉強」として受け止めることが多く、将来の診療放射線技師像を具体的にイメージすることができていませんでした。しかし、今回の学会を通じて、診療放射線技師という職業が担う社会的役割や医療の進歩との関わりを実感し、将来に対する意識が大きく変わりました。

特に印象に残ったのは、核医学のセッションで取り上げられていた「ルテチウム-177 (^{177}Lu)」に関する話題です。 ^{177}Lu は、近年がん治療に用いられている放射性医薬品であり、診断と治療を一体化するセラノスティクスの中核として注目されていました。このような取り組みから、今後の診療放射線技師には診断技術だけでなく、治療に関する知識も求められる時代が到来していることを強く感じました。私自身、それまで核医学を少し遠い分野のように感じていましたが、今後はより積極的に学んでいきたいと思うようになりました。

また、展示ブースでは最新の画像診断装置のほか、CT を搭載した検診バスや乳房 X 線撮影専用車両（マンモグラフィ車）も紹介されており、施設に行かずに検診を受けられる環境が整いつつあることを知りました。これまで診療放射線技師は病院内で働く職業という印象が強かったのですが、地域に出向いて予防医療や検診に携わる診療放射線技師の姿を知り、新たなやりがいを感じるとともに、自身の将来像の幅が広がったように思います。

今回の学会参加を通じて、診療放射線技師という仕事は、単に撮影技術を習得するだけでなく、医療の未来や人々の健康に深く貢献できる重要な職業であるという意識が芽生えました。今後も日々の学習に加えて、最新の知見にも目を向けながら、自分が目指す診療放射線技師像を明確にし、努力を重ねていきたいと思っています。